

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 6 卷第 43 号

第 43 週( 10 月 23 日 ~ 10 月 29 日)

発行年月日:平成18年(2006年) 11 月 2 日

発行 :滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

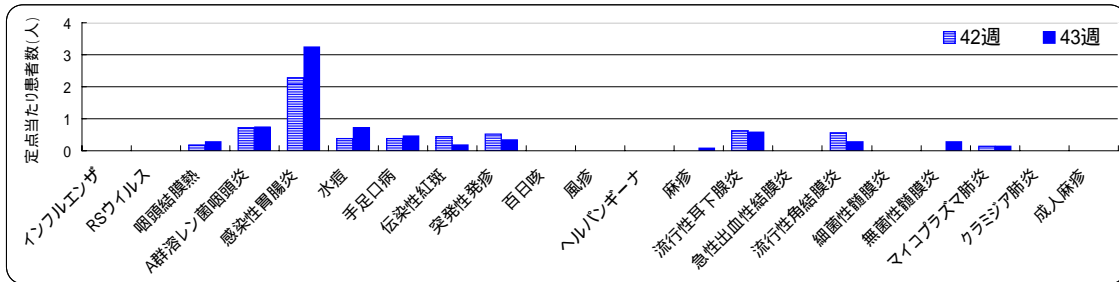
### 今週の感染症発生動向

#### 腸管出血性大腸菌感染症の発生は、ふたたび増加傾向！

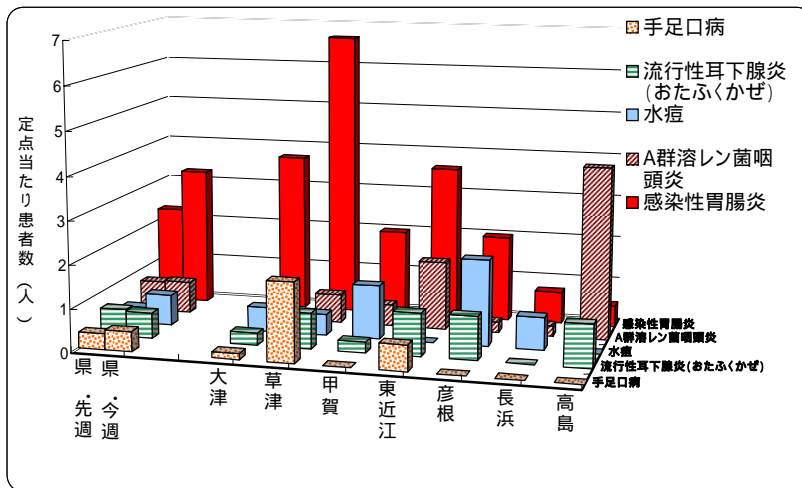
定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、先週(10月16日～10月22日)の報告数より増加しています。増加した疾患は感染性胃腸炎、水痘、手足口病、麻疹等で、減少した疾患は伝染性紅斑(リンゴ病)、突発性発しんおよび流行性角結膜炎です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

全数把握対象疾患では、三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症4名および四類感染症の梅毒1名の届出がありました。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)

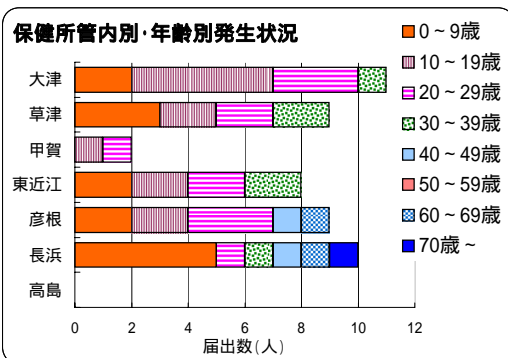


上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象五類感染症、第43週、定点当たり患者数)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおりで、感染性胃腸炎、A群溶レン菌咽頭炎、水痘、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、手足口病の順に多くなっています。感染性胃腸炎は大津、草津および東近江で、A群溶レン菌咽頭炎は高島で多くなっています。また、手足口病は草津で多くなっています。

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況(平成18年第1～43週、H18.1.2～H18.10.29、滋賀県)



滋賀県における発生状況は平成18年第43週現在で49名の届出があり、平成8年以降最も多くなっています。性別では男性23名、女性26名となっており、保健所管内別・年齢別では左記のグラフのとおりです。今後も引き続き発生予防に対する注意が必要です。

- ＜発生予防に対する注意＞
1. 十分な手洗いをする
  2. 食肉(生レバーやユッケ)等を生や加熱不足で食べない  
加熱調理時は、食品の中心温度が75℃、1分以上となるよう十分に加熱する
  3. 家族内の二次感染を防ぐ

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき、医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (43週)	累積報告数		平成17年報告数	
			滋賀 (43週)	全国 (43週)	滋賀	全国 <sup>(*)1</sup>
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	コレラ	0	1	45	0	54
	細菌性赤痢	0	<sup>(*)2</sup> 6	411	<sup>(*)3</sup> 7	556
三類感染症	腸チフス	0	0	64	0	50
	腸管出血性大腸菌感染症	4	49	3,454	12	3,567
四類感染症	E型肝炎	0	1	57	0	40
	A型肝炎	0	21	294	1	168
	オウム病	0	0	19	1	34
	デング熱	0	0	47	1	73
	マラリア	0	0	54	0	66
	レジオネラ症	0	11	427	3	276
五類感染症	アメーバ赤痢	0	7	612	5	680
	ウイルス性肝炎	0	0	232	2	277
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	142	2	147
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	4	92	0	60
	後天性免疫不全症候群	0	7	1,065	7	1,161
	ジアルジア症	0	1	74	0	81
	梅毒	1	4	511	0	555
	破傷風	0	0	99	0	114
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	59	2	65
	急性脳炎	0	1	135	2	180

\*1:平成17年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

\*2:検査法第26条の3に基づく検査所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。

\*3:検査法第26条の3に基づく検査所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

### 全国における全数報告感染症の発生状況 - 第43週(10/23～10/29) -

一類感染症: 報告なし	四類感染症: A型肝炎	1例	五類感染症: アメーバ赤痢	5例	
二類感染症: 細菌性赤痢	8例	つつが虫病	1例	梅毒	10例
腸チフス	4例	日本紅斑熱	2例	ジアルジア症	1例
三類感染症: 腸管出血性		ブルセラ症	1例	破傷風	2例
大腸菌感染症	64例	レプトスピラ症	6例	後天性免疫不全症候群	6例
四類感染症: デング熱	2例	レジオネラ症	8例	クリプトスポリジウム症	1例
マラリア	2例			クロイツフェルト・ヤコブ病	2例

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点<sup>\*</sup>から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。<sup>\*</sup>疾患により定点数は異なります。

### (1) 疾病別・週別発生状況(第38～43週、9/18～10/29)

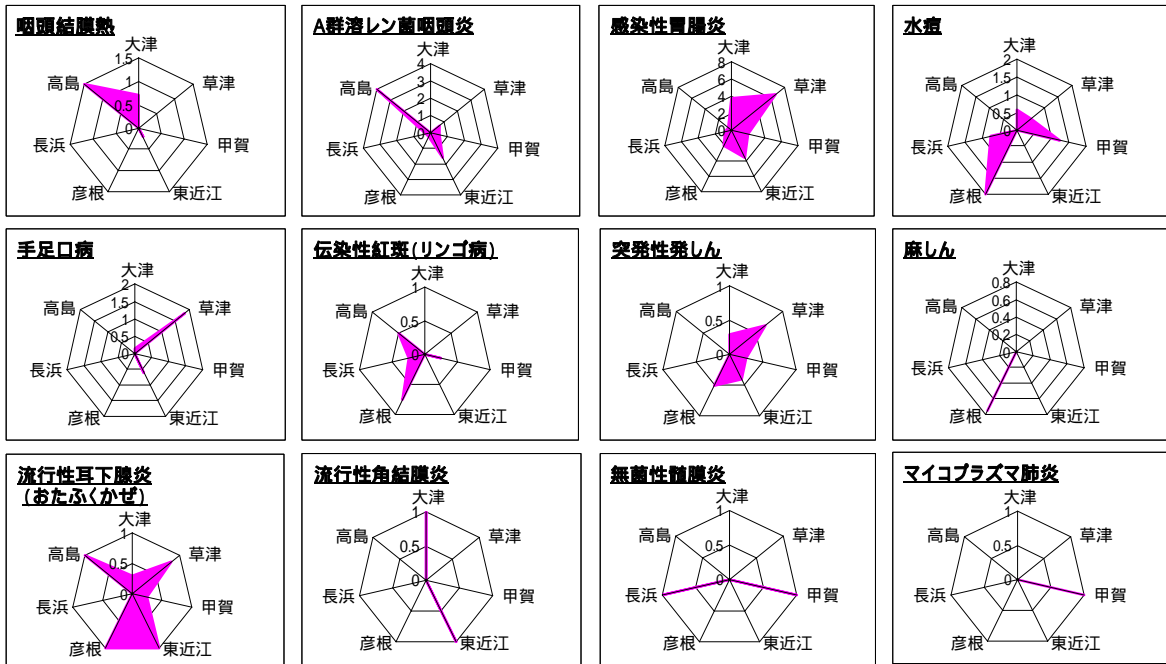
疾患名	定点当たり患者数 ( 前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	38週		39週		40週		41週		42週		43週	
	(9/18～)	(9/25～)	(10/2～)	(10/9～)	(10/16～)	(10/23～)	39	40	41	42	43	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	0.22	0.23	0.09	0.22	0.19	0.28						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.25	0.39	0.28	0.91	0.72	0.75						
感染性胃腸炎	0.81	1.35	1.13	1.66	2.28	3.25						
水痘	0.50	0.32	0.59	0.75	0.38	0.72						
手足口病	1.72	1.35	0.56	0.63	0.38	0.47						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.19	0.19	0.31	0.19	0.44	0.19						
突発性発しん	0.19	0.52	0.56	0.66	0.53	0.34						
百日咳	0	0	0	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	0.03	0.03	0	0.09	0	0						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0.03	0.06	0	0.09						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.22	0.52	0.84	0.44	0.63	0.59						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.29	0.33	0.86	0.71	0.57	0.29						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0.14	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0.14	0.14	0	0	0.29						
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0.43	0.43	0.14	0.14						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第43週、10/23～10/29)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.28	0.71	0	0	0.20	0	0	1.50	■
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.75	0	0.67	0.50	1.60	0.25	0.25	4.00	■
感染性胃腸炎	3.25	3.71	6.67	2.00	3.60	2.00	0.75	0.50	■
水痘	0.72	0.57	0.50	1.25	0	2.00	0.75	0	■
手足口病	0.47	0.14	1.83	0	0.60	0	0	0	■
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.19	0	0	0.25	0	0.75	0.25	0.50	■
突発性発しん	0.34	0.29	0.67	0.25	0.40	0.50	0	0	■
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻しん(成人麻しんを除く)	0.09	0	0	0	0	0.75	0	0	■
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.59	0.29	0.83	0.25	1.00	1.00	0	1.00	■
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.29	1.00	0	0	1.00	0	0	0	■
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.29	0	0	1.00	0	0	1.00	0	■
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	1.00	0	0	0	0	■
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	

■ は定点当たり患者数が先週より増加、■ は定点当たり患者数が非常に多い状態  
0 1 2 3 4  
定点当たり患者数(人)

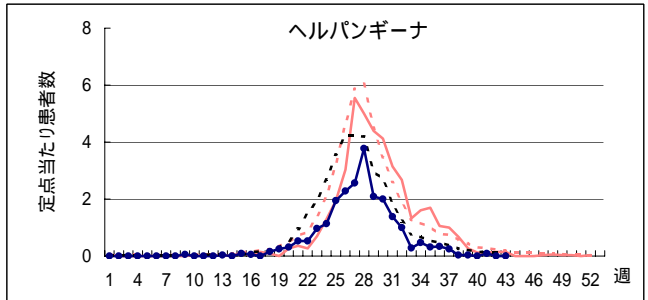
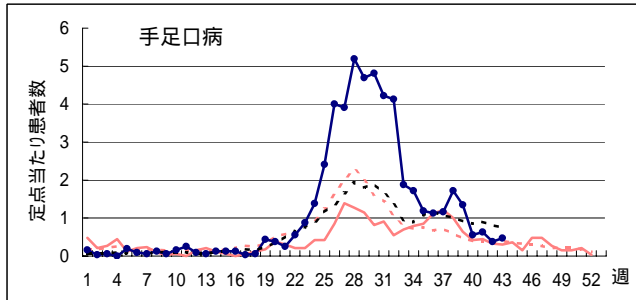
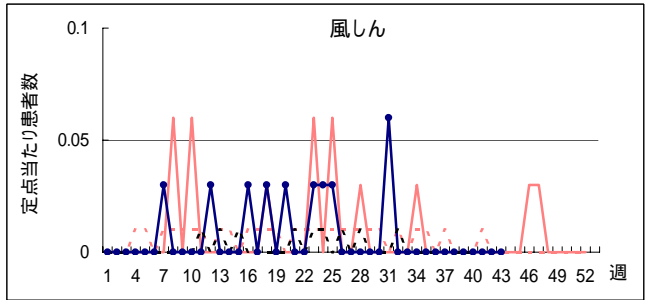
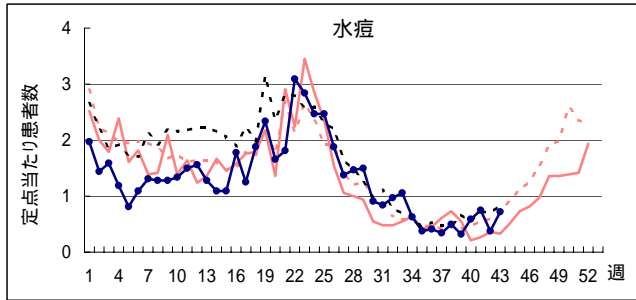
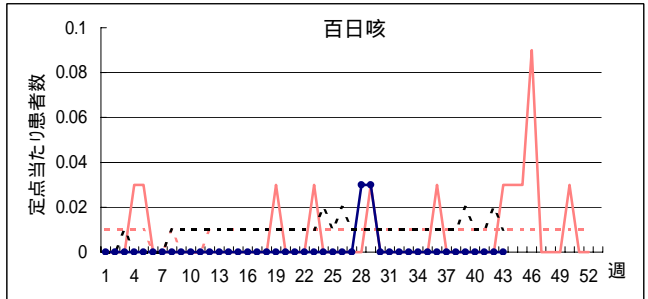
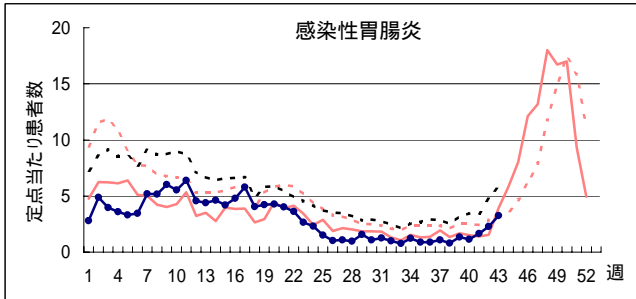
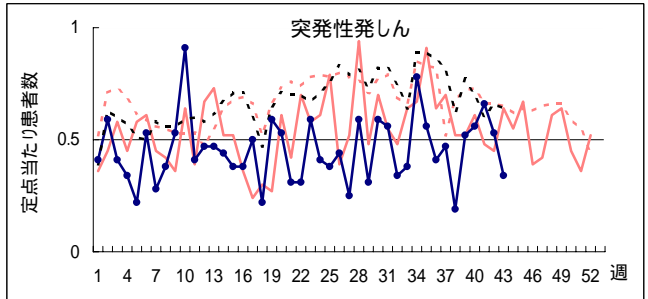
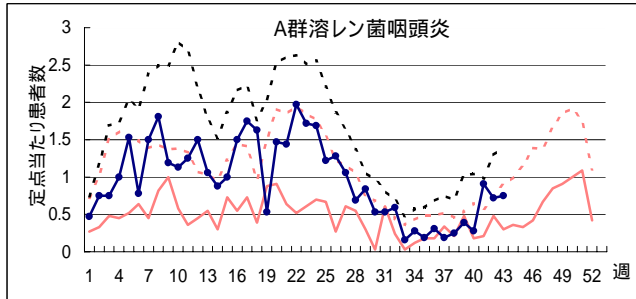
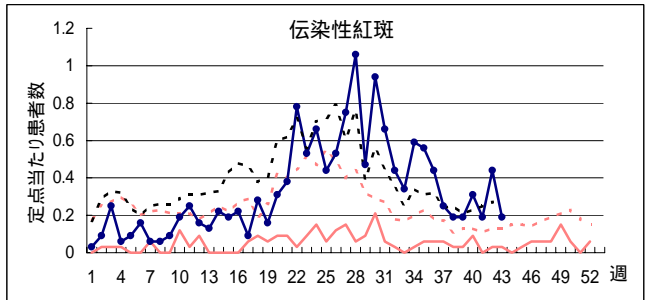
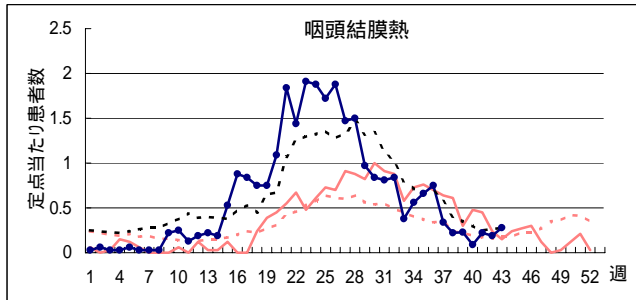
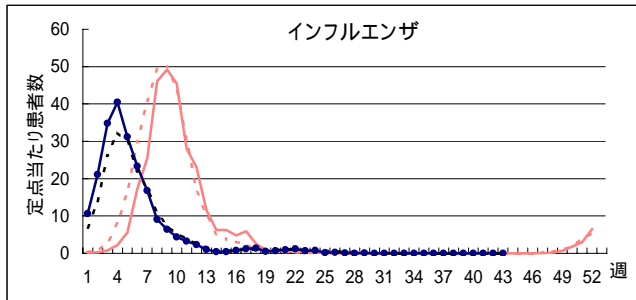
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況：保健所管内別定点当たり患者数

- 咽頭結膜熱-----東近江および高島で先週よりやや多くなっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎---- 高島では先週より減少していますが、定点当たり患者数は4.00と多い状態が続いています。
- 感染性胃腸炎-----大津では先週より減少していますが、草津、甲賀および東近江では急増し、特に、草津で多くなっています。
- 水痘-----草津、甲賀、彦根および長浜で先週より多くなっています。
- 手足口病-----草津で急増しています。年齢別では、すべて5歳以下となっています。
- 伝染性紅斑-----先週多かった彦根でかなり少なくなり、県全体としても先週より減少しています。
- 突発性発しん-----県全体では先週より減少していますが、甲賀および彦根では微増となっています。
- 麻しん-----彦根から報告されており、1歳、7歳および10～14歳がそれぞれ1名ずつです。
- 流行性耳下腺炎-----彦根で先週よりやや多くなっています。
- 流行性角結膜炎-----大津および東近江から報告されています。
- 無菌性髄膜炎-----甲賀および長浜から報告されています。
- マイコプラズマ肺炎-----甲賀から報告されています。

# 疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第43週、H18.1.2～H18.10.29)



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第43週、H18.1.2～H18.10.29)

H17 { 滋賀 ————  
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●——●  
全国 .....

